

# 造影 CT・MRI をオーダーする際の注意

## CT：ヨード造影剤

- 【禁忌】 ヨード過敏症の既往 重篤な甲状腺疾患
- 【原則禁忌】 気管支喘息 重篤な心疾患 重篤な肝疾患 重篤な腎疾患 マクログロブリン血症 多発性骨髄腫 テタニーのある患者 褐色細胞腫およびその疑い
- 【慎重投与】 糖尿病など

## MRI：ガドリニウム造影剤

- 【禁忌】 ガドリニウム過敏症
- 【原則禁忌】 気管支喘息 重篤な肝障害
- 【慎重投与】 痙攣 てんかん及びその素質のある患者など

## 造影不可能の基準

〔腎機能について〕 ※ 検査前3ヶ月以内の腎機能測定をお願いします。

eGFR が 30ml/min/1.73m<sup>2</sup> 以下の場合には造影剤を使えません。

クレアチニン値しか情報が無い場合、eGFR に計算して判断します。

〔気管支喘息について〕

気管支喘息が明らかな場合、造影検査は危険ですのでオーダーしないでください。

完治した小児喘息や、本当は喘息では無いと考えられる患者様の場合、造影検査は不可能ではありませんが、一定の危険性は否定できません。したがって造影検査の必要性について再考していただく一方、患者様に対して十分なお説明をお願いいたします。また、依頼状の質問事項にはきちんと記入してください。

ただし、以前に同様の造影検査をおこなって異常が無かった患者様についてはその限りではありません。

〔その他の原則禁忌について〕

重篤な疾患かどうかは主治医の判断ですので主治医の責任において検査が行われます。

慎重な適応の判断と患者様へのご説明をお願いします。

以上、医療安全を徹底するためのルールといたしますので先生方のご協力をお願いいたします。

放射線科医師 輿石 強太